

労働局長によるベストプラクティス企業訪問結果 ～「過重労働解消キャンペーン」の取組として～

秋田労働局では、毎年11月に「過重労働解消キャンペーン」を実施しており、この取組の一環として、秋田労働局長（甲斐^{かい}三照^{みつあき}）が、今年度の「ベストプラクティス企業」に選ばれた株式会社五洋電子様を訪問しました。（以下敬称略）

“モノづくり”が得意です——

（株）五洋電子は、潟上市のほか、宮城県柴田郡にも生産拠点を置き、電気製品を製造しています。

働きやすい環境を整備するための「働き方改革」の取組について、お話を伺いました。



潟上市の本社・鶴沼台工場



当房人事総務部長（右）のご説明

まず、当房人事総務部長からお話を伺いました。

（株）五洋電子は、秋田県誘致企業として1964年に設立、電気製造業としては誘致企業第1号だったそうです。

“五洋”とは五つの大洋。世界に事業を拡大させたいという思いで、従業員4人でスタート。今では従業員数400名を超えるまでに成長しました。

近隣社会福祉施設との合同避難訓練等、社会貢献活動も積極的に実施しています。



吉永人事総務部長代理（右）のご説明

続いて、吉永人事総務部長代理から、働き方改革への取組についてご説明いただきました。

(株)五洋電子での取組は、「働き方改革」という言葉が世に広まるよりも前、2010年に“ワークライフバランス改善活動”としてスタートしました。



吉永部長代理（左）と当房部長（右）



岡崎監督課長（左）と甲斐局長（右）

しかし、取組当初はなかなか効果が現れなかったようです。

そこで2015年、さらに取組を強化するため、働き方改革の全社活動、

“Goyo Workstyle Innovation”

（略称：GWI活動）を開始しました。

GWI活動とは？

【テーマ】

働き方改革の定着

- 残業を前提としない短時間・高生産性の実現

多様性の尊重

- ワークライフバランス・メリハリのある働き方の定着
- 「働き甲斐があり」「働き易い」企業風土

【活動内容】 ※2017年下期から2020年までの内容

- 定時退社日の徹底
- オーバータイムカード（残業の見える化。残業実施の意思表示）
- 集中タイム（毎朝朝礼直後の1時間）
- 業務プロセスの見える化と作業の統一、負荷の平準化、多能工化

など



「ここまで様々な紆余曲折がありました——。」吉永部長代理は振り返ります。
2017年上期、GWI活動が形骸化しつつある状況が散見されました。
「なんのためにGWI活動をやっているのか、社員の理解が浸透していない。
会社が何を目標しているのか、社員に見えていない……」

2017年下期、GWI活動を見直しました。定量的な目標値を設定するなど、
労働組合と連携し、社員にとってより納得性のある取組へとGWI活動を進化
させました。

2020年、GWI活動の数値目標をほぼ達成。今後は、基本的な取組を継続す
るとともに、さらに在宅勤務制度の導入・普及について議論を開始しました。



人事総務部 佐藤さん（左奥）

続いて工場を視察させていただきました。ご案内は人事総務部の佐藤さん。

自動化の推進、ITを活用した生産、受注から出荷までのトータル生産管理システム等の“高効率生産システム”を実現しています。

誰もが安心して働ける職場づくりを目指して、法を上回る育児休暇制度等を導入しています。2020年、くるみんの認定も受けました。



高度な技能を有する社員の評価、処遇と責務を明らかにし技術の承継を図ることを目的に、「TOPレベル技能者」制度が制定されています。

後継者の育成も目的としているため、本人の認定時だけでなく、後継者育成完了時にも褒賞を行う制度となっています。

“モノづくり”だけでなく、“ヒトづくり”もお得意のようです。

モノづくり、ヒトづくり、そして職場づくり。働き方改革による生産性向上が実現しています。

「旗振り役である人事総務部だけでなく、いかに社内全体を巻き込み、全社的な取組にしていくか。それが一番苦勞したところでした。働き方改革だけでなく、シニアや女性の活躍をいかに進めていくか、今後の課題として考えています。」とご説明をいただきました。

局長は、「社員の納得性を高め、全社一丸となって取り組んでいる。これらの取組をぜひ周知していきたい。」と応えました。

秋田労働局では、引き続き、働き方改革の必要性について広く周知するとともに、県内企業の過重労働解消に向けた取組を推進していきます。



株式会社五洋電子の皆様、ありがとうございました！